

事務事業名	図書館資料購入事業	事業期間	1989 ~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係（図書館）	連絡先	72-9085	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0204	資料の整備と充実		

予 算 事 業 名	図書館資料購入事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	06	事業	04
-----------	------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 ・地域の①情報拠点として②読書施設として③地域資料の保存活用④住民の生涯学習を支援するという役割を果たすため、図書館の基本的業務である活字、映像、録音物、その他必要な資料を収集・購入する事業である。
 ・購入する資料は、利用者からのリクエストを参考に、諏訪地域内及び県内図書館の所蔵を確認しつつ、職員による選書会議で決める。

現状と背景
 開館して33年が経ち、本の汚損・破損も多くなった。内容が古くなったものや読まれなくなった本については定期的に除籍を行っている。新刊は毎年7万冊以上出版されているが、購入できる新刊本は予算増となったものの年間約5,000冊である。

目的
 受益者 全市民及び市内通勤、通学者及び別荘所有者。
 対象 同上

意 図
 ・限られた予算内でバランスのとれた資料購入を行い、利用者の求める資料を的確に収集し提供する。
 ・選書から発注までの期間をできるかぎり短く抑え、発注図書の100%の購入・納品を目指す。

手段・方法
 ・職員の見識を高め、利用者が何を求めているかをリクエストサービスや書店の公表するベストセラーランキング等で把握する。
 ・自己研鑽(書店等での情報収集、新聞・雑誌等各種資料の書評欄や公共図書館への選書関係書籍などを読む等)の中での的確な選書を行う。
 ・通常業務でのフロアワークや他市町村からの借り入れ資料で本についての知識を高め、他市町村の資料収集傾向を知る。

活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	職員による選書会議の開催	会議開催回数	回	選書会議開催回数	12
2					
3					

成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	選書図書の速やかな発注	選書図書の整備率	%	選書購入冊数÷選書発注冊数×100	100
2					

項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業費等(a)	円	10,288,836	10,299,000			
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	10,288,836	10,299,000			
活動指標	会議開催回数	目標	12	12		
		実績	0			
	達成率	%	0.00	-	-	-
	-	目標	-			
		実績	-			
	達成率	%	-	-	-	-
成果指標	選書図書の整備率	目標	100	100		
		実績	99			
	達成率	%	99.00	-	-	-
	-	目標	-			
実績		-				
達成率	%	-	-	-	-	

事務事業名	図書館資料購入事業		事業期間	1989 ~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係 (図書館)	連絡先		72-9085	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因分析	購入予定だった図書が絶版により購入できないことがあった。子どもによく読まれる児童書は傷むことが多く、破損等により買い替えを行い、資料を提供している。しかしながら、発行から時間が経ち絶版や増刷が未定であるなどの理由で手に入らないものも出てきている。				
	総合評価	選書については担当と話し合い進めているが、開館時間延長による時差出勤もあり選書会議の時間が取れなかった。但し選書は職員全員で行っており、担当がある分野に関しては担当と話し合いをするなど複数の目で行えている。				
	課題	利用者から専門書のリクエストがあるが、多くの利用が見込まれない場合は他館からの取り寄せで対応している。出版状況の変化により品切れ・絶版が増えていることから、今後選書図書の整備率は目標を満たせなくなる可能性がある。				
改革・改善の方向性 (ACT)	成果 コスト の 方向性 の 内容 策 び 容	現状維持 現状維持				
改革・改善の方向性 (ACT) 策 び 容	今年度は選書会議が行えなかったため、来年度については目標とする回数を現状と合ったものにし、できる範囲で開催できるようにしたい。また、ネットワークで諏訪地域図書館が繋がっているため、他館の資料購入状況や利用状況を確認し、選書材料の一つとしたい。 児童書の買い替えの他、辞書等のレファレンス資料についても最新のものとなるよう所蔵資料の洗い出しをし、入替を進める。 今後も迅速で的確な選書により必要な情報を市民に届けられるよう努めたい。					

作成担当者	守矢 美空				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	図書館ネットワーク管理事業	事業期間	1989 ~	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係（図書館）	連絡先	72-9085	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0201	図書館機能の充実		

予算事業名	図書館ネットワーク管理費	会計コード	01	款	10	項	05	目	06	事業	06
-------	--------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 ・平成7年度より諏訪広域6市町村の公共図書館の蔵書管理、貸出返却、予約等がコンピュータ化され、同時にコンピュータによるネットワークシステムを構築した。
 ・ネットワークの核となるセンター館は（株）諏訪広域総合情報センタ内に設置している。
 ・同一システムを使うことによるシステム開発（バージョンアップも）、維持管理の経費等のコスト削減を図っている。

現状と背景
 ネットワーク化されるまでは、相互貸借等の申し込みや本の所蔵確認等は電話またはF a xで行っていたため、時間と手間がかかっていた。コンピュータによるネット化により他館の蔵書確認や予約等が簡単に出来るようになり、事務改善と利用者へのサービスの向上に繋がった。また、H29年4月のシステム更改により、利用者の利便性がより高まった。

目的
 受益者 全市民、市内通勤者、通学者、別荘所有者他。
 対象 図書館利用者でまだインターネット利用の申し込みをされていない方や、インターネットで図書館の本を検索、予約等ができることを知らない方を対象とする。
 意図 インターネット登録者数を増やし、メールでの予約件数を増やす。

手段・方法
 諏訪地域図書館情報ネットワークシステム更改に伴いソフトもバージョンアップし、利用者の方がweb上から今借りている資料の貸出の延長が出来るようになった。このことを次の手段でPRしていく。
 1. 館内にインターネット利用のPR掲示。2. 広報ちの、マスコミに記事掲載。3. ビーナチャンネル、図書館ホームページ等のメディアへPR。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	チラシの配布、広報等への記事によるPRを充実させる	PR回数	回	2ヶ月に1回のPR	6
成果指標	1	インターネット登録者数を増やす	インターネット利用申込件数	件	インターネット利用申込件数の合計	2,000	
		2	オンライン予約数	ネットワークからの予約件数	件	ネットワークからの予約件数	12,000
		変更履歴					

項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財源内訳	事業費等(a)	円	6,237,950	6,382,000			
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円		17,000			
	一般財源	円	6,237,950	6,365,000			
活動指標	PR回数	目標	回	12	12		
		実績		0			
		達成率	%	0.00	-	-	-
	-	目標					
		実績					
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	インターネット利用申込件数	目標	件	2,200	2,250		
		実績		2,220			
		達成率	%	100.91	-	-	-
	ネットワークからの予約件数	目標	件	12,000	12,500		
		実績		12,184			
		達成率	%	101.53	-	-	-
備考							

事務事業名	図書館ネットワーク管理事業		事業期間	1989	～	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係(図書館)			連絡先	72-9085	

事業 評価	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動指要標因分	インターネット登録件数が増加した要因としては、窓口での案内が成果につながったと考えられる。インターネット登録により、予約本が用意できた際の連絡がメールとなること・サーバー稼働時には24時間自分で貸出期間の延長ができること等、利用者・図書館双方に利便性があることが伝わった。				
	総合評価	PR活動という大々的なことは行わなかったが、予約や貸出期間延長の際の案内や、登録用紙を配布することで登録者を増やすことができた。有効な手段だと考えられるので、今後も継続していく。				
	課題	インターネットを利用しない方(子どもや高齢者)や不要であると考えられる方が一定数いることを考えると、現在利用登録をしている人の中から新規のインターネット登録者を増やすことは難しいが、周知できていない可能性もあるのでPRは継続する。				
改革・改善の方向性(ACIT)	成果 コスト	現状維持 現状維持				
改善の方向性の内容	日常的に図書館を利用される方には、インターネット登録をすることで、図書館利用がより便利になるということが周知できているのではないかと考えられる。しかし今年度は特別なPR活動を実施しなかったため、来年度については広報への掲載等による周知の機会を増やし、利用登録者におけるインターネット登録者の割合を増加させたい。					

作成担当者	守矢 美空				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	図書館運営事業	事業期間	1984 ~	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係（図書館）	連絡先	72-9085	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0107	育ちと学びをつなげる		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0201	図書館機能の充実		

予 算 事 業 名	図書館運営費	会計コード	01	款	10	項	05	目	06	事業	02
-----------	--------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
図書館の最も基本的な業務は本・雑誌・紙芝居などの活字資料やCD・DVDなどの音や映像資料、そして電子的な資料などの収集・提供・保存です。これらのサービスと大きく関連する業務にリクエストサービス・相互貸借サービス・利用者の質問や相談に答えるレファレンスサービス等があります。図書館庶務や図書館運営の基本となる事務を行う事業です。

現 状 と 背 景
(どうして)
図書館庶務や図書館運営の基本となる事業である。図書館は地域の情報の拠点として、本・雑誌・新聞・リーフレット等の活字資料や、CDやDVDなどの視聴覚資料、またインターネットやデータベース等の情報を収集保存し、市民に提供しています。

目 的
対 象
受益者 (誰のために)
全市民、市内通勤者、通学者、別荘所有者。
対 象 (直接働きかける)
同上

意 図 (どんな状態にしたいか)
図書館は、本・雑誌などの資料を収集・提供・保存する場所という外に、仕事や生活の役に立つ多くの情報を手に入れられる場所、市民の書齋であるということを知ってもらい、そして、地域のシンボル・市民の心のよりどころとなることを目指します。

手 段 ・ 方 法
(どうやって)
平成30年4月から開館時間が延長になったことを、館内掲示や広報などでPRし使いやすくなったことを市民へ周知させる。
一人でも多くの市民が図書館に対して満足してもらえるよう、求めている資料や情報等を収集し、提供できるようにする。また、市民が図書館に対して何を求めているか、満足度調査アンケートをとる。

活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	開館時間延長になったことのPR	PR回数	回	館内掲示、広報、HP掲載	6
2	開館時間延長による利用者の満足度調査の実施	アンケート回収率	%	アンケート回収率÷アンケート配布数	70
3					

変更履歴 (指標)29年度 システム更新になったことのPR⇒30年度 開館時間延長になったことのPR

成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	開館時間延長について満足度の向上	満足度の向上	%	開館時間延長について満足度の向上	70
2					

実 施 状 況	項 目	単 位	2018年度(H30)		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
財 源 内 訳	事業費等(a)	円	16,082,127	16,084,000								
	国庫支出金	円										
	県支出金	円										
	地方債	円										
	その他特定財源	円	80,400	130,000								
	一般財源	円	16,001,727	15,954,000								
活 動 指 標	PR回数	目標	回	6	7							
		実績	回	7								
	アンケート回収率	目標	%	70	70							
		実績	%	0								
	-	目標	%	0.00								
		実績	%									
成 果 指 標	満足度の向上	目標	%	70	70							
		実績	%	0								
	-	目標	%	0.00								
		実績	%									
	-	目標	%									
		実績	%									

備 考

事務事業名	図書館運営事業	事業期間	1984 ~	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係(図書館)	連絡先	72-9085	

事業 評価 価値	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因 分析	開館時間延長のPRIについてはホームページやビーナチャンネルなど市役所関係の広報を活用したことにより目標値を上回ったが、アンケート調査の内容を利用頻度などの利用状況としたため、今年度は満足度についての調査をすることができなかった。				
	総合評価 課題	今年度よりビーナチャンネルに図書館のお知らせコーナー枠を作ったことにより、PRIについては目標値を上回り、情報発信の場を増やすことができた。 開館時間延長開始の初年度ということもあり、アンケート調査内容を満足度よりも利用頻度を優先した。満足度を調査するタイミングをいつにするのか考える必要がある。				
	改革 改善 の 方向 性 (ACT)	現状維持 現状維持 ・PR回数を増やしていくためには情報発信の場を職員ひとりひとりが日々の業務の中で意識的に探していく必要があると考える。また市民へ開館時間延長を周知するために今後もホームページへの掲載を継続する。 ・満足度調査アンケートをするタイミングは、開館時間についての問い合わせなどが減り、市民に時間延長が浸透してきた中で実施することが望ましいと考える。また質問事項については利用者の満足度がわかるものであり分析しやすく、利用者が回答しやすいものにする必要があると考える。				

作成担当者	濱 純佳					
最終評価責任者	藤森 隆					
最終評価年月日	2019年5月17日					

事務事業名	図書館施設管理事業	事業期間	1989 ~	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係（図書館）	連絡先	72-9085	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0201	図書館機能の充実		

予 算 事 業 名	図書館施設管理費	会計コード	01	款	10	項	05	目	06	事業	03
-----------	----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
利用者が安全・安全に利用できるよう、また親しみやすい施設となるよう建物の維持管理及び館運営を行う事業である。

現状と背景
(どうして)
建物の維持管理で、資格を必要とする業務また専門知識・技術が必要とする業務は業者に保守点検等の業務を委託している。
館運営としてはかねてより開館時間の延長を求める市民の声が多数あったため、平成30年(2018年)度から開館・閉館時間を変更し、1時間延長した。

目的
受益者(誰のために) 全市民、市内通勤者、通学者、別荘所有者
対象(直接働きかける) 同上

意図(どんな状態にしたいか)
平成29年(2017年)度まで開館時間10時~18時だったものを平成30年(2018年)度から9時30分~18時30分に延長し、1人でも多くの人利用できるように環境整備をした。今後もアンケート等に基づき市民サービス・利用者サービスの充実を図る。

手段・方法(どうやって)
平成28年8月末から9月初めの1週間、図書館利用者へ開館時間についてのアンケート調査を実施した。実施した結果は開館時間の延長を望む声が48%あったため、1月と2月の水曜日と金曜日の計13日、開館時間の延長の試行を行った。1日平均25人の利用があった。
開館時間延長するにあたり、短時間勤務の臨時職員を1人増員し、正規職員、嘱託職員、臨時職員は出勤時間をずらして対応することとした。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	市民アンケートの実施	アンケート回答者数	人	市民アンケート回答者数	600
成果指標	変更履歴	成果・効果は何?		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	図書館利用者の増	図書館入館者数の増	人	入館者数	140

(指標) ~30年度 開館時間の延長 ⇒ 31年度~ 図書館利用者の増

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	9,934,286	10,068,000	
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	9,934,286	10,068,000			
D 成 果 指 標	アンケート回答者数	目標	600	600			
		実績	241				
		達成率	40.17	-	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	-				
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	-					
図書館入館者数の増	目標	人	140,000	140,000			
	実績		131,856				
	達成率	%	94.18	-	-	-	
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	

備 考

事務事業名	図書館施設管理事業		事業期間	1989 ~	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係 (図書館)		連絡先	72-9085	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)					
	翌年度成果 方向性 コスト					
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 動指 要標 因分 析	平成30年度から開館時間を変更し、前年度より午前30分、午後30分計1時間の延長をしたが、入館者数については特別な効果は見られなかった。				
	総合評価 成果 課題	利用者へのアンケート調査の結果、開館時間は現在の9:30~18:30で良いとする意見が多数を占めた。来館者の増加には繋がらなかったが滞在時間が伸びた可能性があり、居場所としての役割に一定の効果はあったと考えられる。 開館時間の延長についてはHP等でPRしているが、今後広報等も利用し更にPRをしていく必要がある。アンケート調査を行ったが、実態を把握するため定期的に利用人数をカウントし、実際の利用状況を確認する。				
	改革・改善の方向性 (ACT) 及び内容	入館者数については開館時間延長前の29年度と比較し減少となっているが、前年度は諏訪市図書館の長期休館が影響していた可能性がある。H28年度入館者と比較すると10.1%と微増していること、アンケートから60代以上の利用者が多く、滞在時間延長による日中の居場所としての役割を果たしている可能性がある。開館時間延長を開始したばかりであるため、今後も現在の開館時間を継続し、効果を確認していきたい。				

作成担当者	辻井 まどか				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				